

伊豆市議会議員 市政報告 小長谷順二 通信

第40号 令和5年1月



小長谷順二 後援会事務所
伊豆市土肥 450-7
TEL/FAX 0558-98-0400
<http://konagayajunji.web.fc2.com/>
Email photo-ko@yc5.so-net.ne.jp

facebook

小長谷順二 検索

明けましておめでとうございます。市民の皆様には新春をお健やかに迎えのとお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症もこの1月で3年になります。観光産業を生業とする伊豆市では、コロナ禍で経済的打撃を受けていますが、少しずつ回復傾向にあり、引き続き経済対策に努めて参ります。

昨年11月の臨時会で2年間務めさせていただきました議長を退任いたしました。議長を経験し、改めて議会は緊張感をもって議論を重ね、市民のための施策を実践していくことが、伊豆市の発展につながる！と更に確信を持ちました。そして12月の定例会初日に、議員選出の監査員を拜命いたしました。監査員とは常に法令及び条例等の規則に従い、自らの判断と責任において誠実かつ厳正にその職務を遂行するという基本的義務を有しています。監査員として2年間しっかりと努めてまいります。

本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様にとりまして実り豊かな年となりますようお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和4年12月定例会 一般会計補正予算(第5回)

窓口等包括業務委託料・・・・・・・・・・2,700万円
情報発信支援業務委託料・・・・・・・・・・200万円
定住促進事業補助金・・・・・・・・・・1,500万円
土肥地区一般廃棄物排出業者補助金・・・・・・88万8,000円
工事仮設道に伴う松原公園複合施設工事・・・・・・2,200万円
清算に伴う自主運行バス補助金・・・・・・・・・・2,283万円

・上記がおもな事業・

※その他、各施設の物価高騰に伴う電気代の増、人事院勧告等に伴う職員給与の増などの予算計上があり

4億1,158万2,000円
が承認されました。



窓口業務を事業者へ委託

松原公園工事 仮設道の変更で松の保全に努める

松原公園複合施設は工事を進めて行くうえで、最重要課題であった松原公園内の松の保全について、樹木医による診断調査の結果50tのクレーン車で作業を進めるには想像以上に松の根に負担がかかり、貴重な黒松に影響を及ぼす恐れがあることから、海岸から重機等を搬入することが必要と判断し作業道路の変更を求める補正予算が提出されました。

2020年の市民集会に於いて、松の保全には最大限努める！

との約束のもとで工事が進められています。安政の地震の津波にも耐えた黒松は現在も元気に聳え、防風林の役割を果たしています。

松へのダメージは最小限で工事を進めていただきたい。



松保全の為に海岸に仮設道設置

消防力強化の機能別消防団員制度を導入

消防団を中核とした地域防災力の充実・強化を目的に、機能別団員制度を導入する為の伊豆市消防団条例の一部の改正を行うものです。

機能別団員とは、特定の活動に特化した活動を行なう消防団制度で、退団したOB等が機能別団員として火災等の出動時にポンプ車の運転が可能で、素早く消火活動を行うことが出来るようになります。私が、平成30年6月定例会の一般質問で提案した事がきっかけで検討に入り4年半の歳月をかけて実現しましたので、消防力の強化に繋げていただきたい。



昨年の入退団式(狩野ドーム)

ウクライナ支援コンサート 土肥で開催

10月16日、旧土肥小学校体育館に於いてウクライナ支援チャリティーコンサートが開催されました。当日は180名余りの方が集まり、ウクライナ出身の歌姫オクサーナ・ステパニウックさんの歌声に魅了されました。

ウクライナ国家や「アベマリア」「浜辺の歌」「見上げてごらん夜の星を」そして「ふるさと」は会場全員で合唱し、感動的なコンサートになりました。住民有志で実行委員会を立ち上げ、伊豆総合高校土肥分校の生徒もボランティアで参加し、会場に置かれた善意の募金とチケット収入をウクライナ支援基金に寄付する事が出来ました。



会場が一体となった「ふるさと」

小長谷順二の一般質問（12月定例会 令和4年12月3日）

1. 海洋プラスチック問題にどのように取り組んでいきますか

Q 昨今、プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となっています。プラスチックは自然界ではほとんど分解されず、海に流れ込むと海流に乗ってどこまでも拡散し、最も深いとされている深さ1万メートルのマリアナ海溝においてもプラスチックが発見されたことが話題になりました。

プラスチックは海を漂う中で、発がん性や突然変異を引き起こすとされる化学物質や、重金属などの有害物質を吸着します。それらを小魚が食べ、そしてそれを餌とする海洋生物は更に多くのプラスチックを体に取り込み、結果として食物連鎖の頂点に立つ人間の体内に有害物質が吸着しているプラスチックを摂取することになるので、私たちの健康にも直接的に影響がある問題だと考えています。

伊豆市でも昨年6月に、“伊豆市ゼロカーボン戦略「かけがえのない地球を守る小作戦」”宣言を表明しました。脱プラスチック社会の実現を目指すためにどのような取り組みを行っていくのかお示してください。

A プラスチックごみの低減の取り組みは「リデュース（使用量の削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）の3Rの徹底」によるプラスチックごみの削減と流失抑制を行うことが大切なので、令和4年3月に策定した第3次伊豆市一般廃棄処理基本計画に沿って進めていきます。

プラスチック資源循環促進法による、プラスチック使用製品廃棄物の分別収集と、再商品化に努めることが求められていますが、伊豆市ではすでに必要な分別収集を行っているため、今後のごみの出し方に変更はありません。市内全体の活動として12月の第1日曜日に年末クリーン作戦を各地で実施し、不法投棄ごみ対策として週3回のパトロール並びに回収作業を講じており、令和3年度は約7tを回収しました。



深刻な海洋汚染のプラごみ問題

2. 危険空き家を放置したままで大丈夫ですか

Q 平成31年3月定例会に於いて、平成27年5月に全面施行となった空き家等対策の推進に関する特別措置法後の伊豆市の危険空き家対策の進捗状況について一般質問をいたしました。その後も危険空き家対策は進んでいないと認識しています。

危険空き家の放置で起こるトラブルは、差し迫った問題として直ちに顕在化します。特に土肥大藪地区などの住宅密集地では、今後の大規模災害を見据えると非常に心配がありますので、住宅密集地での危険空き家を増やさないための政策的対応と、【環境】・【観光】・【防災】のバランスのとれたまちづくりである「観光防災まちづくり」を進めるために、国・県の制度活用以外に伊豆市独自の対策をお示し頂き、観光地の安心安全に努めていただきたい。



長年放置された老朽空き家

A 現在、市が把握している危険な空き家は6件です。区長さんからの情報による管理不全空き家は23件ありますが、国が法律に基づき指定する特定認定空き家はありません。

空き家への解体補助金はありませんが、公共事業で活用が予定される空き家は土地の寄付を条件に除却の補助事業を設けています。

住宅密集地は災害時の救助上の理由からも大きな課題をかかえているため、解体を促すためのインセンティブとなるような土地の固定資産税の減免は手段だと思うので具体的に検討したと考えています。

観光地である当市は、景観に配慮したまちづくりへも対応すべきだと考えており、観光地にふさわしい景観を創り上げるため、危険空き家の解消後、避難地や道路拡幅用地、観光資源になり得る土地については、効果的な公共事業が可能か否か今後も調査研究し対応していきたい。

第38回

小長谷順二 市政報告会開催

令和5年1月25日(水)PM7時～ 土肥支所 4F集会室

集会や会議の自粛で急遽開催を見送る事がございます、事前に問い合わせをお願いします。98-0400

12月20日の本会議最終日に総務経済委員会で「空き家等対策推進のための財政支援強化を求める意見書」の議案を発議し、全会一致で採択されました。今回の私の一般質問でも議論された危険空き家対策は、国が積極的に取り組まなければ解決できない大きな課題があります。

国へは危険状態の空き家等に対する、必要最低限の緊急安全措置について財源を含め、法整備等を行う事を伊豆市議会として求めました。